

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

あり

応募概要	分野	メディア芸術	種目	映像
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ		
	制作団体名	一般社団法人こども映画教室		
	代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		団体ウェブサイトURL
				https://www.kodomoeiga.com
	制作団体所在地	〒 150-0036	最寄駅(バス停)	渋谷駅
		東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	こどもえいがきょうしつ		
	公演団体名	こども映画教室		
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		土肥悦子(代表理事)/諏訪敦彦(専務理事)/藤岡朝子(理事)/原悟(理事)/林知一(理事)	団体社員:土肥 悦子・諏訪 敦彦/従業員(事務局):浅見 孟・藤田 叶 加入条件社員総会での協議の上、加入	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	浅見孟
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	浅見孟
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		kaikai.kodomoeiga@gmail.com		05031881549

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催) 2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。活動地域が全国に広がる。 2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催) 2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。 2019年～ 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。 文化庁「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」受託 2023年～ 東京国際映画祭主催「映画教育国際シンポジウム2023」企画運営	
	学校等における公演実績	小中高生向け映画ワークショップ実施実績 累計 約210回 2019年より巡回公演・文化施設等活用事業等での実施実績あり 累計 73校(2025年終了時想定) 詳細は【別添シート】(1)参照	
	特別支援学校等における公演実績	「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演―」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこない、その後も毎年の巡回公演において、そのように普通学級との混合で実施している。特に学校から「いつも登校できなかったり、学級に入れない子がこの公演では一緒に楽しむことができた、と報告をいただいた。	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=4SGzb7CRDvo	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

別添	あり
----	----

【公演団体名 一般社団法人こども映画教室 】

メインプログラム・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○					
		小学生(高学年)	○	中学生	○					
	企画名	映画鑑賞+撮影ワークショップ「みんなで出演！映画に出てみよう！」								
	企画のねらい	詳細は【別添シート】(2)を参照 私たちは本事業を実施するにあたって、下記の7項目を「企画のねらい」としています。 ①映画制作の現場を体験することで、映画の成り立ちを学ぶ。⑤芸術鑑賞能力の向上。 ②映画づくりは一人ではできないため、チームワークを学ぶ。⑥クリエイティブな鑑賞体験や、多角的な発想力の育成。 ③体育館を映画館に変身させる。⑦自己肯定感を高める。								
	作品(コンテンツ) 選択理由	『キートンの探偵学入門』は45分の短編作品ということで、1時限が45分～50分の単位である学校での上映に最適であると考えている。映画館で雑用兼映写技師として働きつつ探偵を目指すキートンが工作中に居眠りした拍子に上映中の映画のなかへ入り込んでしまうという斬新なストーリー。チャップリンと並び称される喜劇王キートンが現実の世界と映画の世界を自由に行き来しながら、超絶アクロバティックな身体能力で息をもつかせぬアクションシーンを繰り広げ、大人も子どももスクリーンに釘付けになる。一方で映画のなかに入っていきたいという誰もが持つ願望をそのまま映像化したトリック撮影は、映画ならではの楽しさを十二分に味わえる作品。								
	児童・生徒の参加可能人数	メインプログラム	最大500名想定 (対象学年のみで行う、全校生徒で行う等、学校と相談のうえ対応可能です。)							
	ワークショップ	最大500名想定 (対象学年のみで行う、全校生徒で行う等、学校と相談のうえ対応可能です。)								
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】									
	○	ワークショップ1回 → メインプログラム								
		ワークショップ2回 → メインプログラム								
	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ									
	メインプログラム → ワークショップ2回									
	メインプログラム → ワークショップ1回									
	【全体の流れ】									
	【別添シート】(3)参照									
	実施時間	WS1回目	80分	メインWS	135分	WS2回目		合計	215	分

メインプログラム・ワークショップの内容	指導体制		映画監督(特別講師)※1:萩生田宏治、深田隆之、瀬田なつき、大川景子、五十嵐耕平、山本英、太田達成、高橋壮太 エグゼクティブプロデューサー:土肥悦子 映画制作スタッフ:山本大輔、飯岡幸子、西原孝至、奥定正掌、田中雄之、小林和貴、藤田開 チーフテクニカルマネージャー:酒井貴史 テクニカルマネージャー:相馬航佑 プロデューサー:浅見孟 プログラム監修:諏訪敦彦(映画監督・東京藝術大学大学院教授) ※1 巡回スケジュールにより1名を派遣	
	演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名		萩生田宏治監督:監督作『楽園』(00、トロント国際映画祭、釜山国際映画祭招待作)、『帰郷』(04)、『神童』(06)等 深田隆之監督:監督作『ある惑星の散文』(18、ベルフォール国際映画祭正式招待)、『ナナメのろうか』(22、サン・セバスティアン国際映画祭正式招待)等 太田達成監督:監督作『ブンデスリーガ』(22、PFF入選、FILMADRID入選)、『石がある』(23、全州国際映画祭インターナショナル・コンペティション部門グランプリ、ベルリン国際映画祭フォーラム部門正式出品)	
	従事予定者数 (1回あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む		12名	運搬 <div>ハイエース</div> <div>積載量: 1 t</div> <div>車 長: 4.265 m</div> <div>台 数: 2 台</div>
	実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等 ※条件等がある場合には、様式No.4にも記載の上、御提出をお願いします。		【ワークショップ】 会場:体育館(もしくは参加する児童生徒・教職員の皆様・スタッフが入れる教室やホール)に持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペースが確保できること。 また、学校備品である机・イス・教卓などを適宜、体育館に移動。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物:(もしあれば)夏期は扇風機等。冬季はストーブ等。	【メインプログラム】 会場:体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたは持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物:三角コーン、もしくはマーカーコーン、こども映画教室持参モニターを屋外に設置するための台(ポートボール用の台等)、朝礼台、(もしあれば)ドラム式電源コード
	当日の所要時間 (タイムスケジュール)の目安		【ワークショップ】 【前日搬入・設営】 前日 16:00～18:00撮影機材および上映設備設営 【当日】 (ワークショップ:60分) 【映画上映】 7:30 学校到着 担当の先生と打ち合わせ・WS準備 8:40 ワークショップ開始(5分) ※全体の流れ① 8:45 映画鑑賞(45分) ※全体の流れ② 9:30 休憩(5分) 9:35 ワークショップ再開(25分) ※全体の流れ③④	【メインプログラム】 (ワークショップ日と同日) (メインプログラム:145分)(ワークショップ終了後・同日開催) 【撮影実演ワークショップ】 10:00 メインプログラム開始(60分) ※全体の流れ①・② 11:00 休憩(10分) 11:10 WS再開(75分) ※全体の流れ③・④・⑤ 12:25 メインプログラム 終了 ～16:00 上映機材搬出
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します(大幅な変更は認められません)。	6月	7月	8月	9月
	13日	14日	5日	18日
	10月	11月	12月	1月
	16日	14日	20日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。		計	100日

企画に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載してください。

世界各地の映画祭でも注目される
映画人たちの映画体験 —



映画鑑賞 + 撮影ワークショップ
「みんなで出演！映画に出てみよう！」



こちらで用意した
スクリーンでの映画上映

ワークショップ含む
公演所要時間
1時間目～
4時間目
(4コマ)

※通常、前日放課後に設置

上映作品
キートンの
探偵学入門

※デジタル上映

対象学年
小学生～中学生
生徒・児童数
1名～500名
を想定



体育館の窓にカーテン等が
無い場合はご相談ください



プロジェクターを
体育館後方に設置し上映



映画監督が演出する映画撮影体験
こどもたちみんなが出演



フィルム上映について
実際にフィルムを触って体験します



カメラで撮影しているカットを
モニターでみんなで確認します



映画撮影に使うマイクや
本格的なカメラで撮影します



映画が編集されていく様子を
みんなで体験します

最後に完成した作品（約2分）を
スクリーンで上映します

著作権、上演権等の
許諾状況

各種上演権、使用
権等の許諾手続の
要否

該当あり

該当コンテンツ名

『キートンの探偵学入門』

該当事項がある
場合

権利者名

株式会社ダッサイ・フィルムズ

許諾確認状況

使用(上演)許諾取付済

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 一般社団法人こども映画教室 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。									
会場の設置階の制限		条件なし		主幹引き込み電源容量			6 A以上			
舞台設置面積	間口	4.5 m		奥行	1.5 m					
	高さ	3.7 m								
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応			可			
搬入間口の広さ	幅	指定なし	m	高さ	指定なし	m				
遮光の要否	完全暗転必須(相談可)		緞帳の要否			あれば使用する可能性がある				
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			なし				
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			不要				
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			指定なし	m以内			
搬入車両の種類	ハイエース		台数	2~3	台					
搬入車両の大きさ	車幅	1.88 m		車長	5.38 m					
備考	※遮光の可否は、映画上映をするので暗転が必要ですが、できるだけ様々な状況に対応いたしますので、ご相談ください									

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	不要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	採択後、上映用レンズ準備のため、 体育館フロア床面の大きさ(縦と横)のサイズをヒアリングします	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
	本公演					

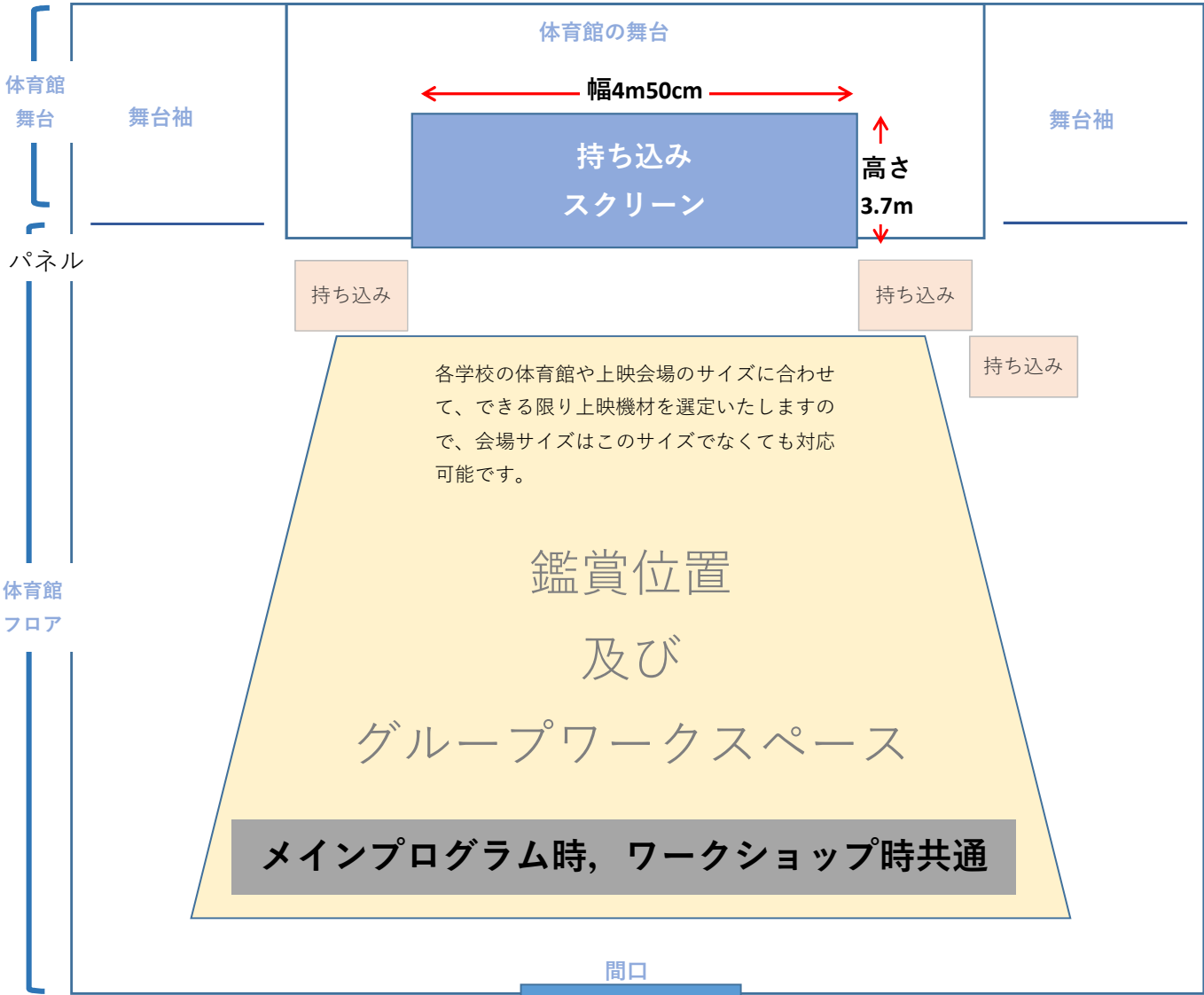
個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1		
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて御確認ください。

会場簡易図面



フロア使用時

別添

なし

【公演団体名 一般社団法人こども映画教室】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

こどもたちに対して、映画に関するワークショップを専門的に実施している団体として、学校教育の中で、“映画芸術の本質と出会う”という体験をしてもらい、普段体験することのできない名作の鑑賞や映画撮影を学校教育の中で体験してもらおう。

この巡回公演によって、こどもたちの発想力やコミュニケーション能力が育成され、将来の映画人の育成や、映画鑑賞能力の向上を目的とし、取り組む。

私たちは、これまで、映画祭（東京国際映画祭、高崎映画祭など）や、大学（早稲田大学、東京藝術大学など）、フィルムコミッション（信州上田フィルムコミッション）、各地のアート系映画館（シネマ尾道、シネモンド、シネマテークたかさきなど）など、映画や教育の関連団体との共催事業をしてきたが、そこでは映画に関心のある家庭や映画が身近にある地域のこどもたちが多く、あまり映画や芸術に関心のない家庭や映画が身近に体験できない地域のこどもたちは参加する機会が少なかった。本事業を通じ、公教育の場ということを活かし、映画に興味のある家庭や地域だけではなく、幅広い層に映画の芸術体験をしてもらおう。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

こども映画教室では、大人が指導するのではなく、こどもたちの自主性を尊重し、こどもたちみずからが主体的にワークショップを体験してもらいたい。映画、という敷居の低い芸術に出会うとき、こどもたちはワクワクととても楽しそうに自発的に動き考え、友だちとコミュニケーションを図っていく。そうして、映画ができるころには自分に自信が付き、コミュニケーション能力も高まっているのである。

実施にあたっては、映像制作のプロであるだけではなく、すでに小学生、中学生たちとともに映画撮影体験や映画鑑賞のワークショップをして、ファシリテーションについても知識や技術のあるスタッフを派遣する。こどもたちがそうした大人と出会うこと自体がこどもたちにとって、深い体験となる（本気の大人に出会う）。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

実施校とは、密に連絡を取り合い、学校側の希望に合わせて、必要な準備工程、スケジュールを確認し合いながら事業準備を図る。上映場所についても夏や冬場の体育館での上映よりも視聴覚室など冷暖房設備のある場所を検討するなどして、児童生徒が快適な環境で鑑賞体験ができるよう工夫する。また、地域にホールなど映画上映に適した文化施設があり、協力を得られるようであれば、そういった施設の利用もする。メインプログラムやワークショップの内容についても、実施校の施設状況や受け入れ体制に合わせ、実施校と相談し構成をする。なるべく臨機応変に学校側の希望に沿うようにしていくことが可能。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

対象の児童・生徒の日々の映画体験や環境に関してヒアリング（例えば、行ったことのある映画館や最近鑑賞した映画、映画に出てくる小道具を知っているか等について）し、これから体験する映画作品との共通点を見出し、児童・生徒に作品に対して親近感を持ってもらった上で鑑賞することで、より体験を充実したものになるようにする。
本公演においても、こどもたちの身近な環境である学校を活用した映画制作・実演を行う。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本公演中に撮影、制作した作品は、学校にお渡しし、後日鑑賞会を行うことで当日のフィードバックや、その後の学びにつなげることができる。実際に、私たちの公演を実施していただいた多くの学校が、学校内の教育発表会や授業参観、卒業生を送る会等、多くの人が集まる場で当公演の作品を上映し、学びの成果を発表、他の学校行事との学びの連携をすることができている。

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.1	【公演団体名 一般社団法人こども映画教室 】
学校等における 公演実績	小中高生向け映画ワークショップ実施実績 累計 約200回 2019年より巡回公演等での実施実績あり 累計 48校	
	2013年	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと 「こども映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)
	2014年	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催
	2015年	横浜国立大学新田小学校「こども映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業で)開催 「全国映画第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇
	2016年6～10月	お茶の水女子大学附属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施
	2017年～	フランスの国際的映画教育プログラム”Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画100年の青春)”のオフィシャルパートナーとして、同プログラムを日本にて実施 東京国際映画祭主催・東京都共催「TIFFティーンズ映画教室」を企画運営
	2018年～	”Le Cinéma, cent ans de jeunesse”の パリでの上映会”A nous le cinéma ! (映画を我らに！)”に参加。映画教育に携わる15カ国以上の学校教育者と交流。 ※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止(2022年再開)
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として 「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ！ 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 文化庁「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－実施 【実施校】C区分:小学校6校 独立映画鍋主催「映画教育のススメ～教育における映画の可能性～」に参加(中学生たち含む)
	2020年	文化庁「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施 【実施校】C区分:小学校1校 文化庁「令和2年度子供のための文化芸術体験機会の創出事業」実施 【実施校】小学校6校
	2021年	文化庁「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施 【実施校】C区分:小学校3校 文化庁「令和2年度第3次補正予算事業子供のための文化芸術鑑賞体験支援事業」実施 【実施校】小学校3校
	2022年	文化庁「令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演－」実施 【実施校】C区分:小学校6校 中学校1校 A区分:小学校4校 中学校1校 文化庁「令和3年度 補正予算事業 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」実施 【実施校】小学校2校
	2023年	日本芸術文化振興会「令和5年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」 【実施校】C区分:小学校4校 中学校1校 A区分:小学校9校 中学校1校
	2024年	日本芸術文化振興会「令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」 【実施校】C区分:小学校1校 A区分:小学校3校

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3-②	【公演団体名 一般社団法人こども映画教室 】
企画のねらい	<p>①映画制作の現場を体験することで、映画の成り立ちを学ぶ。</p> <p>メインプログラムは「映画の中に入ってみる」。</p> <p>こどもたちを出演者として、映画制作のプロが映画撮影の実演を行う。体育館や視聴覚室など、こどもたちの日常生活空間がカメラで切り取られることで、一気に映画の現場へと変化する。このワクワク感のなかで、こどもたちが出演する映画撮影(1シーン)を実演する。</p> <p>こどもたちは、メインプログラムを通して映画を内側から触れることにより、“現実の世界から映画の場面がどうつくられているか？”を体験することができる。また、映像制作のプロと出会うことによって、将来の芸術家の育成のきっかけをつくることが期待される。</p> <p>②映画づくりは一人ではできないため、チームワークを学ぶ。</p> <p>さらに、映画撮影を行うプロフェッショナルたちがコミュニケーションをとる姿を目の当たりにすることによって、こどもたちは一つの作品や一つの目標に対してどのようにコミュニケーションをとる必要があるのかを知り、コミュニケーション能力の育成も期待できる。</p> <p>③体育館を映画館に変身させる。</p> <p>地域の人たちと共に鑑賞することで、こどもから老人まで楽しめる映画ならではの地域活性ができる。</p> <p>④映画史に残る名作『キートンの探偵学入門』をみんなで鑑賞する。</p> <p>この映画は、無声映画であり、セリフは字幕となるが、アクションやギャグが満載で、低学年のこどもたちでも理解でき、とにかく楽しい作品である。</p> <p>⑤芸術鑑賞能力の向上。</p> <p>メインプログラムで“映画の中に入ったこどもたち”は、普段あまり見ないような映画史上の名作を、自分の身近なものとして興味をもって鑑賞することだろう。</p> <p>こうして、この企画がこどもたちの芸術鑑賞能力の向上につながることを目指したい。</p> <p>⑥クリエイティブな鑑賞体験や、多角的な発想力の育成。</p> <p>また、一般的な「物語を語る(ナラティブな)映画」の鑑賞体験の楽しさだけではなく、映像や音など、一見物語と関係のない部分でも映画を楽しく鑑賞できる気づきを与え、自分たちで映画の面白さを見出すクリエイティブな鑑賞体験や、多角的な発想力の育成の向上につなげることを目指す。</p> <p>⑦自己肯定感を高める。</p> <p>また、映画という芸術には、絵画や小説、演劇などの他の芸術と違い、「カメラに映ってしまう」という側面がある。そこに映っているものは、目の前に存在する何かである。つまりそれは、他のものと取り替えのきかない、かけがえのない唯一のもの”代替不可能“なもの、であるといえる。</p> <p>この特徴を利用し、本企画を開催することで、「自分はこれでいい」・「私はここにいていいんだ」などと、参加するこどもたちの自己肯定感を高めることも期待される。</p>	

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.3-②	【公演団体名 一般社団法人こども映画教室 】
プログラム全体の流れ項目内容	<p>《全体の流れ》</p> <p>【ワークショップ】(80分 ※休憩5分含む)</p> <p>①「これから鑑賞する映画についてのお話(製作国・出演者など)」(5分) 「映画館&映画上映のしくみ&映写技師のお仕事について知る」・「フィルムに触ってみよう」</p> <p>②「映画鑑賞」:上映作品『キートンの探偵学入門』(45分/1924年/アメリカ)(45分) 持ち込みスクリーンにて上映</p> <p>休憩(5分)</p> <p>③ 鑑賞ワークショップ(20分) メインプログラムとの共通点や映画で気がついたことを講師と対話。 クリエイティブな鑑賞体験についてのお話</p> <p>④ 特別講師まとめ(5分)</p> <p>【メインプログラム】1回(135分 ※うち休憩10分)</p> <p>① 導入・講師紹介・ガイダンス(10分)</p> <p>②「映画の中に入ってみよう」(50分) グループに分かれて児童&生徒が出演する。プロの映画制作者が演出・撮影・録音し、映画撮影の実演をする。</p> <p>映画監督がこどもたちを演出し、カメラマンがカメラで撮影する風景を、参加者は見て体験する。さらに別途設置したモニターには、カメラマンが実際に撮影している映像を映写し、どのような映像が撮られているかリアルタイムに確認し、体験することができる。 ※他のグループが撮影を行っている際に時間がある場合は、音を別に録音をして撮影した映画につけてみる。</p> <p>➡日常から映画の場面がどうつくられるのかを体験してもらう</p> <p>休憩(10分)</p> <p>③「撮影したシーンを編集してみよう」(45分) カットが割られていることを伝える。映画はカットを重ねてシーンになっていくことを体験する。</p> <p>④「撮影したものをみんなで観よう」(20分)</p> <p>⑤ 特別講師振り返り</p>	